

第1章

— 特集 —

特集

アンテナレストラン「福扇華」がオープン ～「福扇華」を拠点として県産農林水産物・県産酒の販売を促進～

県では、平成30年11月、東京都千代田区麹町の「住友不動産ふくおか半蔵門ビル」の1階に、「魅力あふれる福岡県を体感できる」をコンセプトとするアンテナレストラン「福扇華」をオープンしました。

「福扇華」という名称には、昔から末広がり縁起が良いとされている扇の文字を用いることで、福岡県の益々の発展と、福岡から新しい風を吹かせたいという願いを込めています。

福扇華

福岡県の魅力を総合的に発信する拠点「福扇華」

- ・「福扇華」では、がめ煮や水炊きなどの郷土料理はもちろん、「博多和牛」、天然マダイをはじめとする水産物や、旬の野菜といった福岡県の美味しい食材をふんだんに使用した日本料理に加え、いちごの「あまおう」や柿の「秋王」といった四季折々のフルーツ、八女茶、日本酒や焼酎などの「福岡の食」を楽しむことができます。
- ・また、内装には県産木材（京築ヒノキやセンダン）のほか、大川組子を施した引き戸やランプシェード、久留米餅の壁紙、博多織の額装を使用し、食器には小石原焼や上野焼を用いるなど、東京に居ながら福岡の匠の技を体感できる上質な空間を演出しています。
- ・このほか、県産品の販売やイベントスペースを活用した県・市町村等のプロモーションイベントも開催し、福岡の魅力を総合的に発信します。



「福扇華」店舗外観



「福扇華」での提供メニュー（イメージ）



県産品の販売スペース



イベントスペース（80㎡）としての活用も可能なテーブル席

「福扇華」を拠点とした「福岡の食」の販売促進

- ・オープンから4か月で来店者数は1万人を超え、「天然マダイのしゃぶしゃぶや元気つくしのごはんが美味しい」、「福岡の酒が豊富」などの評価を来店者からいただいています。一方、「福岡に、こんなに多くの魅力的な食材があるとは知らなかった」という声もあることから、「福岡の食」をさらに多くの方に知ってもらい、「福扇華」への集客増と顧客化を図っていくことが重要です。
- ・このため、旬の食材を生かした新作メニューや著名シェフが監修した特別メニューの提供など、サービスの充実を図っています。
- ・さらに、福岡の花を使ったアレンジメント教室や「八女伝統本玉露」のすすり茶体験といったイベントを開催するとともに、機内誌への広告や専用ホームページの開設により、広報・PRの強化に取り組んでいます。
- ・また、「福扇華」のオープンに伴い、県では県産食材を「福扇華」に配送する実証試験を開始しました。民間事業者の福岡～東京間の定期便に、青果物やサワラ、天然マダイといった水産物、「はかた地どり」など様々な県産食材を混載し、低コストで安定的に配送できる物流システムの構築に取り組んでいます。
- ・今後も、こうした取組を通じて、本県の食と文化の魅力を発信し、県産農林水産物や県産酒など加工品のさらなる販売拡大を図ります。



福岡の花アレンジメント教室



「八女伝統本玉露」のすすり茶体験



「福扇華」を拠点とした「福岡の食」の販売促進の概念図

農業の経営力強化に向けて

県では、本県農業が将来にわたって持続的に発展していくよう、収益性が高く、社会情勢の変化に対応した、足腰の強い農業の確立を目指しています。

人口減少に伴う担い手不足が進む中、本県農業の維持・強化を図るには、地域をけん引する大規模経営体の育成が必要です。

経営力強化の取組

農業経営の法人化は、外部信用力の向上や安定的な雇用の確保、経営継承の円滑化といったメリットがあり、農業者の更なる経営発展を図るために重要です。

このため、県では、意欲ある農業者や集落営農組織が効率的かつ安定的な農業経営を実現し、地域の中心的な経営体となるよう、法人化を推進するとともに、高い経営能力を有する農業者の育成を進めています。

県としての支援

○ 普及指導員による経営体育成支援

雇用型経営や集落営農組織の法人化に取り組む農家・組織に対して、個別面談や経営診断を実施し、労働力を考えた品目の組み合わせや、施設整備などの経営計画の作成を支援。平成 30 年度は 230 経営体を対象に実施。

また、法人化に必要な労務管理や会計処理などの研修会を県域や県下 10 か所の普及指導センター毎に開催。30 年度は 24 回開催し、延べ 500 人を超える農業者が参加。

○ 法人化を支援する専門家の派遣

法人化を目指す経営体に対し、農業経営コンサルタントや税理士、中小企業診断士といった専門家を派遣。30 年度は 46 経営体に、延べ 81 回派遣。

○ 「農業経営確立塾」の開設

就農後 5～10 年の農業者を対象として、農業経営を体系的に学ぶ講座の開設や、経営計画の策定を支援。30 年度は 15 名が受講。

○ 「ふくおか農業経営発展塾」の開設

就農後 10 年以上の農業者を対象に、経営管理、マーケティング、労務管理及び財務管理に関する講座を開設し、高い経営力を有する経営者を育成。30 年度は 20 名が受講。

本県農業をけん引する経営者の育成

講座名	対象	内容
農業経営確立塾	経験年数 5～10年	・農業経営を体系的に学ぶ講座 ・経営計画の策定 (経営理念・課題分析など)
ふくおか農業経営発展塾	経験年数 10年～	・経営戦略や労務管理などを学ぶ講座 ・経営戦略の策定 (技術・販売・人材確保など)



公認会計士による講義

○ 農業法人ネットワークの設置・支援

県内農業法人の相互研鑽を図るとともに、人材育成をはじめとした課題の解決による経営発展を目指し、30年度に設立。28名の法人経営者が参加。

今後の取組

これまでの受講者の要望も取り入れ、令和元年度より、「農業経営確立塾」と「ふくおか農業経営発展塾」を改編し、新たに「ふくおか農業経営アカデミー」を開設します。これにより、本県農業をけん引する経営者の育成を図ります。

法人化の優良事例

○ 有限会社グリーンワールド八女（八女市）

〔経営体の概要〕

- ・ 個人工場を経営していた茶農家3戸が、緑茶の生産・加工を行う法人として平成12年に設立。
- ・ 18年からは、大麦若葉の生産・加工を開始。茶園22ha、水田裏作の大麦若葉50ha（最大）の経営。

〔特徴的な取組〕

- ・ 経営力の強化を目指し、茶の乗用型摘採機や加工施設の周年活用を図るため、時期が競合しない大麦若葉の生産・加工を事業化。
- ・ 事業拡大に合わせ、計画的に社員を採用することで、周年雇用による大規模複合経営を実現。
- ・ 総務、栽培管理、加工製造の3部門を、女性や後継者を含む役員で分担。加工製造部門では、女性役員の感性を活かし、コラーゲン入り青汁緑茶などの新商品を開発。これらが経営力の強化に繋がったと評価され、24年度の農林水産祭で天皇杯を受賞。
- ・ 27年度に、JGAPなどの生産工程管理に関する認証を取得。
- ・ 令和元年度から碾茶^{てんちゃ}需要に対応できる体制も整備。
- ・ 雇用保険や労災保険の加入をはじめ、社員旅行や食事会などの福利厚生も充実。また、休憩所を設置するなど、社員が働きやすい環境を整備。



グリーンワールド八女の社員



女性従業員等が開発した
青汁緑茶商品

